

# New Products Review

これは買い!?  
気になる新製品をいち早くテストする!



必要な情報を即座に取り出すデータ検索ソフト

## Datahunter Ver.1.1

デザイン一新、機能アップしたオールインワンルーター

## MN128-SOHO SL11



キレイに写せるカメラを目指した211万画素デジカメ

## COOLPIX950



ネットワーク機能を強化したFAXソフト

## EasyFAX 2000/ EasyFAX PRO2000



インターネットFAX機能が充実

## STARFAX99/ STARFAX99Enterprise



インターネット時間がわかるデジタルウォッチ

## Swatch Beat Webmaster



iモード対応デジタル携帯電話機

## デジタル・ムーバ F501i HYPER



Mac、インテルマシン対応最新マルチメディアOS

## BeOS Release 4j



必要な情報を即座に取り出すデータ検索ソフト

# Datahunter Ver.1.1

**Check!**

ファイル、メールやWWW情報を一元管理  
文章やファイルから抽出したキーワードで検索  
データの時系列分布をビジュアル表示



開発元	シャープ(株)
価格	20,000円
問い合わせ	東日本相談室：043-297-4649 西日本相談室：06-6621-4649
動作環境	ウィンドウズ95/98/NT4.0が動作する 32Mバイト以上のメモリーを持つもの で、ハードディスクの空き容量が約 40Mバイト以上のマシン
URL	<a href="http://www.sharp.co.jp/datahunter/">http://www.sharp.co.jp/datahunter/</a>

パソコンのハードディスクは、各種のアプリケーションで作成したさまざまなファイルですぐいっぱいになる。Datahunterは形式が異なる数多くのファイルの中から、必要な情報を探し出してくれる情報検索ソフトだ。

ハードディスク内のファイルを一元管理

Datahunterはハードディスクに保存されているさまざまな形式のファイルを手間を省かずに一元管理でき、入力したキーワードから該当するファイルを即座に検索してくれる。プレーンテキスト、HTMLファイル、マイクロソフトワード95/97/98、エクセル95/97や、拡張子がrtfのリッチテキスト形式などのほか、BMP、JPEG、GIF、TIFF、PICT形式といった画像ファイルにも対応している。さらに電子メールやインターネット上のウェブ情報も管理、検索できる。ただし対応するメールソフトは、アウトLOOK97/98、Exchange、Becky! Internet Mail Ver.1.24.16、Eudora Pro Ver.3.0.3-Jに限られる。

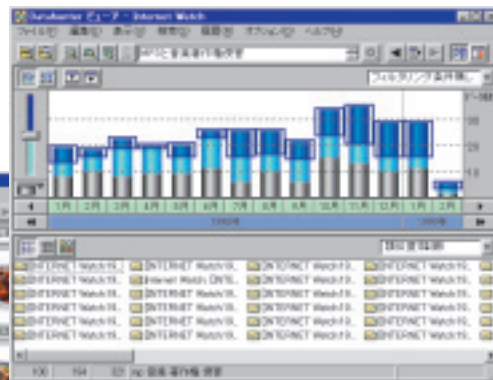
ファイルから抽出したキーワードで検索

検索キーは、単語はもちろん文章も受け付けてくれる。たとえば、「スペースシャトルに乗った日本人宇宙飛行士」とキーを入力すると、初めから用意されている内蔵辞書をもとに「スペースシャトル」、「乗」、「日本人」、「宇宙」、「飛行士」の5つのキーワードを抽出。これらのキーワードを含むファイルを検索してくれる。なお、内蔵辞書にない単語は、ユーザー辞書に自分で登録できる。

便利なのは、検索キーの指定にドラッグアンドドロップが使えることだ。しかも文字列だけでなく、ファイルのドラッグアンドドロップもできる。Datahunterにファイルをドロップすると、ファイル中のデータからキーワードを自動的に抽出してくれるのだ。ファイルをドロップした場合は、作成、更新日時の近いファイルも探し出すことができる。



Datahunterマネージャー。左端の「ビューア」ボタンをクリックするとビューアが起動する。



Datahunterビューア。画面上には、時系列ビューがグラフ表示されている。グラフの青の色が濃いところほど、入力した検索キーとの類似度が高いことを表している。

サムネイル表示にすると、各データのプレビュー画面が表示される。

検索結果は、関連度の高い順にリスト表示される。もし件数が多すぎたら、検索キーを追加して再検索したり、指定した条件を満たすファイルだけを抜き出ししたりして、検索結果を絞り込める。

## 試用レポート

### ① データセットの登録と検索結果の閲覧

Datahunterは、「マネージャー」と「ビューア」の2つのプログラムで構成されている。マネージャーは、名前が示すとおりデータの管理や操作環境を設定するためのツールで、実際の検索はビューアで行う。

検索をするためには、まずマネージャーでデータを登録する必要がある。ファイルはフォルダー単位、メールはメールボックス単位で登録する。登録すると全データからキーワードが抽出され、ファイル名や更新日時などと合わせて「データセット」が作成される。WWW情報の場合は、あらかじめ設定されている「お気に入りホームページ」セットにURLを登録するが、新しく空のデータセットを作ってそこにURLを

登録してもよい。また、「WEB モニタ」を使えば、WWW ブラウザーでアクセスしたウェブページを自動的に登録することもできる。

登録したデータや検索結果をさまざまな形で表示できるのが、Datahunterの特徴だ。通常、データや検索結果には文書やメールなどのタイトルだけが一覧表示されるが、冒頭部分の文章や作成、更新日時を表示したり、文書のプレビューを縮小表示したりもできる。また、ビューアを上下2つに分割し、上部にデータ分布の様子をビジュアル表示することもできる。これを「時系列ビュー」といし、「グラフ表示」と「モザイク表示」の2つの表示方法を切り替えられる。たとえばニュース記事の時系列ビューを見れば、その時々ニュースの傾向がひと目でわかる仕組みだ。

メーリングリストやメールニュースなど、電子メールから情報を得る機会が増えてきた。Datahunterは、そうした情報を活用する際に力を発揮する。ただし、気になるのが2万円という値段。検索速度や機能面でいまい物足りないメールソフトの検索機能と引き換えに、2万円という金額を払う価値を見いだせるかどうか。そこが問題だろう。(藪 暁彦)



発売元	株式会社エヌ・ティ・ティ・テレコム エンジニアリング東京
価格	49,800円
問い合わせ	0120-128-037
付属品	専用シリアルケーブル (D-sub 9ピン メス×メス) 1m、ISDNケーブル3m、 10BASE-Tケーブル (ストレート) 3m、MAC用変換ケーブル (Mini- DIN 8ピン)
オプション	USB-Ethernet 変換アダプター (5,980円) D-Sub 25ピン変換ケ- ブル (800円)

URL <http://www.te-tokyo.co.jp/>

URL <http://www.bug.co.jp/>



MN128-SOHO SL10とはガラリとイメージを変えた新デザイン。本体寸法は70(W)×191(D)×176(H)ミリ。

MN128-SOHO SL10の後継機、MN128-SOHO SL11が発売された。黒を基調としたゴツイ感じのデザインは、一転してスタイリッシュな白に。PHSメールの送受信対応や電話帳機能など小ワザの便利機能も増え、幅広いユーザーの支持を集めそうだ。

#### オールインワンルーターの先駆者

MN128-SOHO SL11は、オールインワンタイプのISDNダイヤルアップルーターである。オールインワンというからには、基本となるルーター機能以外に、DSU、4ポートのハブ、アナログポート3つ、TA機能など、とにかくISDN

# デザイン一新、機能アップしたオールインワンルーター MN128-SOHO SL11

## Check!

### 簡単設定ソフトでルーター初心者も安心 TA機能まで併せ持つオールインワン設計 64K PIAFSに対応予定

でインターネットを利用するときに必要になるものがすべて揃っている。最近では、同等の機能を取り揃えた後発メーカーのダイヤルアップルーターも増えてきたが、この「オールインワンルーター」は、初代MN128-SOHOが切り開いたジャンルだとしてもよい。特に、ダイヤルアップルーターでありながらTA機能を併せ持つものは、つい最近までMN128-SOHOシリーズだけであった。また、これによって、従来ビジネスで使われる機会が多かったダイヤルアップルーターを、家庭内に持ち込むことに成功したのだ。

#### 追加された機能

MN128-SOHO SL11では、パーソナルおよびSOHO向けの機能が重点的に追加されている。これはデザインがいかにネットワーク機器という感じだったMN128-SOHO SL10から、ネットワーク機器の匂いを感じさせない白に一新されたことと無縁ではない。まず、従来はWWWブラウザが設定のメインだったが、新たに簡単設定ソフト「設定らくだ」が提供された。これはウィザード形式で設定ができるソフトで、WWWブラウザ設定よりいっそう親しみやすく、初心者にも扱いやすいものだ。

また、ダイヤルアップルーターで初めて単独でPHSメールを送受信する機能が追加された。外出中の営業マンに「XXサンヨリTELアリ」などのちょっとしたメッセージを送ったり、逆に出先のPHSから会社にメッセージを送ったりと

いった使い方ができる。もちろん、自宅で友達との連絡手段に使うのもいいだろう。新たに加わった「Web掲示板」機能を一緒に使えば、PHSメールの記録をすべて掲示板に残しておくこともできる。なお、PHSメールとは従来PHS間だけで使われてきたショートメール機能で、インターネットメールではない。混同しないように注意してほしい。

さらに、個人ユーザーには嬉しいメール着信通知機能がサポートされた。メールの確認はPOPサーバーにアクセスする方法で、設定した時刻になると自動的にプロバイダーに接続してメールサーバーをチェックする。これなら、どこでも問題なく使える。なお、先のPHSメール機能を使ってインターネットメールの着信をPHSメールで通知することもできる。通知する条件も「特定の相手のメールが届いた時だけ」など、細かな設定が可能になっている。

電話機能では新たに電話帳機能がサポートされ、この電話帳を使った疑似なりわけや識別着信が可能になった。電話機で発信する場合、この電話帳は短縮ダイヤルとして機能する。

#### ルーター機能も充実

ルーター部分にも、新しい機能の追加が予定されている。それは64K PIAFSへの対応だ。ダイヤルアップルーターを社内サーバーなどへのリモートアクセス手段として使う場合、外からはPHSを使ってPIAFSの32Kbpsで利用するというのが一般的だった。しかし、32Kbpsという速度はメールを送受信する程度なら我慢できるが、サーバー上のファイルを転送するといった用途では速度不足だった。まもなくPHS各社が64K PIAFSのサービスを正式にスタートする予定だが、ダイヤルアップルーターが対応してくれば、ISDN並みの64Kbpsでの快適なアクセスが可能になる。そんな嬉しい機能に対応してくれるのだ。版ファームウェアは本誌の発

売日ごろには提供されているはずなので、64K PIAFSの試験サービスを利用している方は、本サービスに先立ってぜひ試してみてください。

もちろん、初代MN128-SOHOから培ってきた、パーソナルユースからプロまで幅広くカバーする多機能さはそのまま受け継がれている。たとえば、ISDN環境でダイヤルアップ接続を利用する際に必要な、AutoNAT (NAT+IP マスカレード) によるアドレス変換機能や、DNSへの問い合わせを接続先プロバイダーごとに自動的に管理してくれるAutoDNS機能、自動接続と切断、それにテレホーダイ対応などの充実ぶりは満足のいく内容だ。そしてLANの管理を簡単にしてくれるDHCPサーバー機能や簡易DNS機能も、SOHO環境では活躍するはず。OCNエコノミーや専用線環境でのセキュリティ確保に重要なフィルタリング機能、PPTP (Point to Point Tunneling Protocol) を用いて暗号化された仮想ネットワーク機能を持つなど、プロ環境でも十分実用に堪える機能を持つ。さらには、ルーターの動作を確認できるsyslog機能や、UNIXサーバーなどと一緒使ってリモートアクセス環境の構築に必要なRADIUS機能も搭載し、従来ワンランク上の価格帯のルーターでしかサポートされていなかった機能が手に入る。定価 49,800 円のルーターとは思えない豊富な内容だ。

## 試用レポート

### ① 「設定らくだ」は確かにラクだ

付属する設定ユーティリティ「設定らくだ」を動かしてみた。この名称と画面デザインには正直なところめまいを感じたが、機能面は非常にいい、というも、いきなりダイヤルアップルーターの設定をするのではなく、最初に「プロバイダーへ加入しましたか?」というような設定とは直接関係ないが、手順として必要なポイントをウィザード形式で表示してくれるからだ。また、ネットワークの設定についても、このユーティリティが細かく面倒を見てくれる。これまで、パソコンにイーサネットカードをインストールしたり、ネットワークの設定をしたりするのは、マニュアルを見ながら自分でやるよりほかはなかった。このウィザードがあれば、迷うことなくこれらの設定が進められるだろう。ルーター設定に進むと、設定した内容がシリアルポートを介して書き込まれ、最後にはウェブの設定画面にたどり着けるのだ。ここまで面倒を見てくれるユーティリティがあれば、ダイヤル

アップルーターを使って初めてインターネットに接続するユーザーでも安心してインストール作業が行えるだろう。結局最後はどうしてもある程度のネットワークに関する知識は要求されてしまうのはルーターの宿命ではあるが、それでもこの「設定らくだ」の存在は心強い。

① PHS やメール着信通知が結構使える  
次に、PHSメールの送受信を行ってみた。使ったのは、ちょっと古い機種だがDDIポケットのISD-P27D (KENWOOD製)だ。DDIではPHSのメールをPメールと呼んでいて、カタカナで最大20文字を送ることができる。文字数は少ないがポケットベルの代わりくらいなら、十分に使える。なお、マニュアルでは「NTTドコモのきやらトークに対応」としか書かれていないが、DDIポケットのPHSでも送受信できた。  
一方、メール着信通知機能はメールサーバーにアクセスしてメール着信を確認する方法だが、他社のルーターに搭載されたものと違うのは、通知する条件を細かく設定できる点だ。特定の相手からのメールだけを対象にする、文字列の一致条件を設定するといった細かな制御が可能なのだ。また、通常はフロントのMSGランプで着信を知らせるのだが、PHSメールで着信を知らせることもできる。これだけ多機能な着信通知機能はほかのルーターにはない。

### ② データ通信は快適そのもの

実際にプロバイダーとの接続を行ってみた。「設定らくだ」で設定しただけで、ウェブでの設定は一切しなかったが、リムネットとSo-netに問題なく接続できた。ダイヤルアップルーターの場合、WWWブラウザやメールソフトを起動するだけで自動的にインターネットに接続してくれるので、電話代がかかるという点を除けば専用線を使っているイメージに近い。この快適さはダイヤルアップルーターならではのもの。ターミナルアダプターでは決して得られない快感だ。

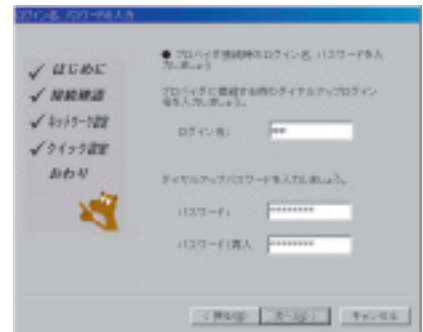
### ③ ダイヤルアップルーターのトップランナー

ダイヤルアップルーターには「どちらか」と個人、SOHOユーザー向き」とか「この機種はプロ向けの機能が豊富」といった得意分野があるものだが、MN128-SOHO SL11に関しては、そのどちらでも力を発揮できるパワーを感じる。初代MN128-SOHOの時代から、ときにはバグに苦しみ、トラブルに泣き、新しい機能を意欲的に取り込んでいった結果生まれ

た、鍛えぬかれたダイヤルアップルーターなのだ。多くのユーザーの声を大切に、その期待に応えてきた開発の歴史が、このMN128-SOHO SL11の中に息づいていると実感した。  
(梅垣まさひろ)



各コネクタ部分と同じ色のケーブルを差し込んで設定するカラー配線を採用。背面左上から下へ極性反転スイッチ、U点、DSU無効化スイッチ、S/T点2つ、終端抵抗切り替えスイッチ、電源スイッチ、アース端子、右上から下へアナログポート3つ、シリアルポート、10BASE-Tポート4つ、LAN切り替えスイッチ。



「設定らくだ」ユーティリティで設定を進めていく。ユーザー名とパスワード入力も簡単。あと少しで設定が完了する。



WWWブラウザによる設定画面。クイック設定では、電話番号、ユーザー名、パスワードを設定するのみの簡単さだが、「設定らくだ」を使う場合はこの画面を見る必要すらない。

キレイに写せるカメラを目指した211万画素デジカメ

## COOLPIX950

Check!

カメラファンの物欲を強く刺激するデザイン  
211万画素CCDによる高精細な描写  
豊富な機能により多彩な写真表現が可能

発売元	株式会社ニコン
価格	125,000円
問い合わせ	03-3216-1010
付属品	8MB CFカード、レンズキャップ、ビデオケーブル、ストラップ、ケース、単3形乾電池4本
オプション	パソコン接続キット、PCカードアダプター、ACアダプター、ワイドコンバーターほか

URL [http://nikon.topica.ne.jp/ei\\_j/](http://nikon.topica.ne.jp/ei_j/)

従来の機種に比べて横幅が短くなったので、全体のバランスが非常に良くなった。F5をイメージさせる高級感あふれるデザインで、曲面が効果的に活かされている。



液晶モニターは2インチ低温ポリシリコン。基本的なレイアウトはこれまでとほとんど同じだが、ボタンの位置が変わっている。

昨年、普及型デジタルカメラの画素数は130万画素を超え、ポストカードサイズに高画質でプリントできるようになった。しかし、デジタルカメラの進化スピードはすさまじく、早くも200万画素を超える製品が続々と登場し始めた。今回紹介するニコンCOOLPIX950も、211万画素CCDを搭載し、1600×1200ピクセルという記録画素数を誇るモデルだ。

ニコンF5をイメージさせる硬派で堅牢感溢れるデザイン

ニコンから211万画素CCDを搭載したCOOLPIX950が発売された。従来機種同様、

レンズ部回転デザインを採用しているが、横幅が14mm短くなり、携帯性が向上した。全体のデザインも同社のニコンF5をイメージさせる黒を基調としたデザインで、ボディ素材にはマグネシウムを採用。表面の仕上げやグリップ素材もニコンF5に準じていて、まったく銀塩カメラの形をしていないのに、非常にカメラを感じる仕上がりになっている。

また、絞り優先AEやシャッター優先AEといった機能も搭載していて、撮影者の意図に応じて絞りやシャッタースピードを選択できる。グリップ上部にはコマンドダイヤルが新設され、これで絞りやシャッタースピードをセットする。

レンズは38～115mm相当の3倍ズームレンズで、マクロ機能も大幅に強化され、これによりレンズ前2cmまでAFのまま近寄れる。最大撮影倍率で撮影すると1円玉が画面からはみ出してしまうくらいアップで撮影できる。ちなみに、AFのステップ数は約4700と従来の5倍以上だ。

起動時間も3秒弱で撮影から再生の切り替えやリリースタイムラグ（シャッターボタンを押してから実際にシャッターが切れるまでの遅れ）もかなり改善されている。

記録メディアはCF（コンパクトフラッシュ）で8Mバイトカードを同梱。CFはすでに64Mバイトという大容量カードが発売されているので、こうした大容量カードを購入すれば、撮影枚数を気にせず高解像度でバシバシ撮れるのも魅力だ。

## 試用レポート

① 記憶色を重視した鮮やかな発色と白飛びが目立たない階調特性

COOLPIX950のCCDは1/2インチ211万画素の補色系タイプ。補色系CCDは感度や解像感に優れるが、色再現は原色CCDのほうが有利と言われる。しかし、それはあくまで一般論だ。今回試用したCOOLPIX950は、まだ試作機段階ではあるが、それでも非常に鮮やかな色再現で、特に青空や樹木の緑がみずみずしく再現される。肌色のくすみもほとんど感じられない。あらかじめCCDのスペックを知らされていなかったら、原色CCDを採用しているものと勘違いしてしまったことだろう。

これは測色的に忠実な色再現よりも好ましい色再現（記憶色）を重視して色のチューニングが行われているため、メニューの画質モードでエンハンス（化粧）を抑えたチューニングも選択できる。ハイライトの白飛びもほぼ問題ないレベルまで改善されており、単に画素数が1.25倍に増えたというだけでなく、根本的な画質も大幅に向上している。適切なレタッチを施せば、A3サイズに伸ばしても、さほど絵が破綻したように見えないのはさすがだ。

② コンパクトカメラを超える表現力を身につけた

お手軽カンタンのプログラムAEだけでなく、絞り優先AEやシャッター優先AEといった本格的なカメラの機能も搭載している。感度もISO80/

100/160/320相当と4段階に切り替えられるので、粒子が荒れても高速シャッターで動きをピタリと止めて撮影したり、絞りを絞ってシャッタースピードを遅くして流し撮りをしたりと、シーンや被写体、表現意図に応じてさまざまな撮影が行える。

CCDのサイズが1/2インチと小さいので、35mm一眼レフのようなボケ表現は望めないものの、意図的に高速あるいは低速シャッターに設定して撮影できるようになっただけでも大きな進歩だ。撮影時には絞りやシャッタースピードが液晶モニターに表示されるので、非常に安心感がある。

ただ、機能的には35mm一眼レフにかなり近づいたものの、操作性はまだだ。メニューの項目移動や選択は、背面のズームレバーとグリップ部のコマンドダイヤルで行うのだが、どうにも思うように指を動かせないし、露出補正や撮影モードを変更する場合も、背面のボタンを押してからコマンドダイヤルを回すのだが、ボタンの位置が遠すぎて、片手でパバッと操作できない点が気になる。

#### ① さまざまなシーンに対応する多彩な撮影機能を搭載

COOLPIX950はオプションのアタッチメントレンズも充実している。24mm相当のワイドコンバーター、183度の画角が得られるフィッシュアイコンバーターに加え、2倍のテレコンバーターも加わった。また、外部ストロボにも対応して外部ストロボのみの発光もできるので、レリーズ待機時間が短縮できると同時に、斜め上から外部ストロボを照射して、立体感のあるストロボライティングも可能となった。

意外に便利な機能が「ベストショットセクタ」(BSS)だ。シャッターボタンを押し続けて数枚連写したカットの中から、もっともブレの少ないカットを自動的に選り出して記録する機能で、一瞬のシャッターチャンスを取り取る撮影には向いていないが、動きのない静物や風景撮影には使



見た目以上に青空は青く、澄み渡って写る。補色系 CCD にもかかわらず、色のにごりは少なく輪郭描写が不自然に乱れることもほとんどない。

#### COOLPIX950

レンズ	38 ~ 115mm 光学3倍ズーム (35mm フィルム換算)
CCD	1/2インチ211万画素CCD
記録メディア	CFカード (8MB 付属)
サイズ(W x H x D)	143 x 76.5 x 36.5 (mm)
重量	350g

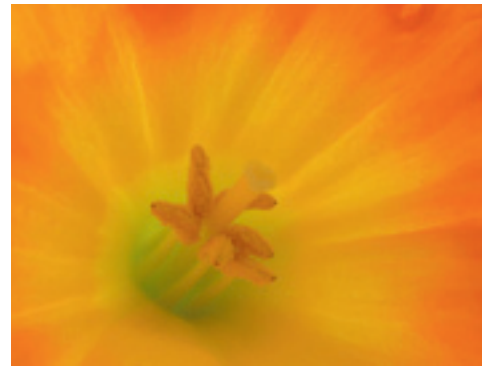
利な機能だ。特に夕景撮影には威力を発揮する。

デジタルカメラを評価する場合、CCDの画素数ばかりに目を奪われがちだが、単に画素数が多ければ高画質というわけではない。CCDの画素数に見合ったレンズ性能やAFの精度、そして、それ以上に色再現や階調再現が大切になる。レスポンスや使い勝手も重要だ。そういう観点から見ても、ニコンCOOLPIX950は正しい方向に進化を遂げたデジタルカメラと言えるだろう。

(伊達淳一)



高速シャッターで動きをピタリと止めるため、絞り優先AEで絞り開放にして撮影。あらかじめ水面でピントを合わせて一瞬を待った。



マクロモードで撮影。ピントがどうしても合わない場合はプリセットフォーカスでピント位置を指定し、カメラを前後してピントを合わせるのがコツ。



黄昏の空も印象的に写る。スローシャッターでぶれが心配だったが、ベストショットセクタ機能が有効に作用し、ぶれのないカットを記録してくれた。



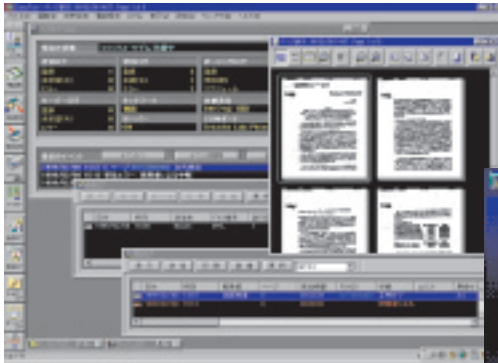
開発元	エー・アイ・ソフト(株)
価格	EasyFAX2000 7,800円 EasyFAX PRO2000 29,800円
問い合わせ	03-3376-7122
動作環境	ウィンドウズ95/98/NT4.0が動作する 32Mバイト以上のメモリーを持つもの で、ハードディスクの空き容量が30M バイト以上のマシン
URL	<a href="http://www.aisoft.co.jp/">http://www.aisoft.co.jp/</a>

ネットワーク機能を強化したFAXソフト

# EasyFAX2000/ EasyFAXPRO2000

**Check!**

インターネットFAXに対応  
ネットワーク経由でFAXモデムが共有できる  
受信ログなどをWWWサーバーで公開可能



EasyFAX2000のメインウィンドウ(PRO2000も同様)。送受信ログやFAXイメージビューアーなどはすべてメインウィンドウ内の子ウィンドウとなる。



簡単FAXパネル。FAX専用機のイメージで、送受信状態などが把握できるもの。

EasyFAX2000は、エー・アイ・ソフトのFAXソフトEasyFAXシリーズの最新版。EasyFAX PRO2000は、サーバー機能と5台分のクライアントライセンスが含まれたもので、基本的なFAX機能はEasyFAX2000と変わらない。

FAX番号ごとに送信設定を自動学習

FAXの送受信はFAXモデムを使い、パソコンからはプリンタードライバーを使ってアプリケーションからの出力をそのまま送信できるという部分は、通常のFAXソフトと同等だ。また、多くのFAXソフトでは、送信したFAXや受信したFAXがログとして保存される。これには送受信の日時などが記録されている。EasyFAX 2000も同様に送受信したFAXを管理している。

EasyFAX2000の特徴は、相手先のFAX番号ごとに最適な送信設定を自動的に学習する「インテリジェント通信」機能、送受信時の自動処理の強化、POPとSMTPを使ったインターネットFAXの送受信、FAX送信ウィザード機能などがおもなものだ。

また、FAXモデムの共有機能は、EasyFAX 2000、同PRO2000のどちらにもあるが、サーバー版には、送受信したFAXのログやFAXイメージをWWWサーバー経由で公開する機能があり、複数のユーザーでFAXデータを参照する場合などに便利だ。

従来からの機能としては、インターネットFAX対応、アドレス帳機能、基本的なFAX機能を集約した「簡単FAXパネル」、ECMエラー訂正などがある。

簡単操作のインターフェイス

EasyFAX2000は送受信のログやFAXイメージの表示ウィンドウが1つのメインウィンドウの中に表示される(MDI形式)。標準状態では、ウィンドウ左側にツールバーがあり、これを使えば基本的な機能が利用できる。このメインウィンドウは、アイコン状態にするとタスクトレイに格納され、この状態でFAXの自動受信やアプリケーションからのFAX送信ができる。

また、FAX専用機のような感覚でEasyFAXを使う「簡単FAXパネル」があり、ここから、設定や手動受信、送信受信ログの表示などが可能になる。ただし、EasyFAX2000とは別のプログラムであり、EasyFAX2000と同時に起動しておく必要がある。

インターネットFAXとは、簡単にいうとTIFFファイルを添付ファイルとして送るインターネットメールで、サーバー側で宛先のFAX番号を取

り出せるように一定の形式が決まっている。この形式に従って送信すれば、送信相手までの経路にインターネットが使え、宛先が一般FAXの場合、メールの到着先のインターネットFAXサーバー(すでにNTTのテガルスなど有料のサービスが開始されている)でFAXのイメージが取り出され、公衆回線を経由してFAXが送られる。特に海外へのFAX送信など、インターネット電話などと同じく、インターネットを経路として利用する分、コストが削減できるシステムだ。

## 試用レポート

### ① ビジネス機能が強化される傾向

現在市販されているFAXモデムのほとんどは、音声通話とFAXを区別し、音声通話の場合に外部電話機を鳴らすといった機能を持っていない(アナログ回線では着信してみないとFAXか音声かが判断できないため)。このため、FAXの受信に利用する場合は、どうしても専用電話番号が必要となる。

こうした問題もあるため、最近、FAXソフトはネットワークを使ったFAXモデム共有機能など、ビジネス利用を想定した機能が強化される傾向にある。

この中で、EasyFAX PRO2000の持つウェブ公開機能は便利だ。この機能を使うと、サーバーで受信したFAXをWWWブラウザで確認できるようになる。FAX専用機にしても社内でも共有して使う機会が多く、発信元の電話番号や接続先の電話番号からは受取人の特定が難しい。結局、受信したFAXを人間が見ないことには判断できないからだ。その確認作業がウェブ経由で行えるのなら、すでに使い勝手はFAX専用機を上回ったともいえるだろう。(塩田紳二)

インターネットFAX機能が充実

# STARFAX99/ STARFAX99 Enterprise

## Check!

アプリケーションからFAXが簡単に送れる  
ネットワークを使ってFAXモデムが共有できる  
インターネットFAXゲートウェイ機能を持つ

STARFAXシリーズは、1987年から販売されているパソコン用FAXソフトで、STARFAX 99はその最新版だ。パッケージは単独で利用できるSTARFAX99と1サーバー+5クライアントが含まれたSTARFAX99 Enterpriseの2つがある（このほかに、サーバーとクライアントごとに追加ライセンスを別途購入可能）。

ゲートウェイ機能を持つEnterprise版

STARFAX99と同Enterpriseの違いは、Enterprise版はインターネットFAXのゲートウェイ（中継）機能を持っていることだ。STARFAX 99と同EnterpriseのどちらもネットワークからのFAXモデムの共有機能を持っている。Enterprise版では、クライアントから受け取った「送信FAX」をいったん添付ファイル付きの電子メールに変換し、送り先に近いFAXサーバーを経由させて送信できる（たとえば、本社のサーバーから支店に設置したSTARFAX99サーバー経由で、支店の近隣にあるFAX番号に送信するなど）。

なお、このFAX共有機能には、SMBプロトコルによるフォルダ共有機能が必要で、さらにインターネットFAXを利用するためには、ExchangeやアウトLOOKなどがMAPIモードで動作している必要がある。

インターフェイスの使い勝手

STARFAX99はいくつものプログラムから構成され、それらが連携して動作するという形式で、この点ではウィンドウが1つしかないEasyFAXとは異なる。ただし、送受信のログは1つのウィンドウ（プログラム）で管理され、FAX専用機のような使い勝手を提供するための「STARFAX通信マネージャ」があるため、通常の利用ではEasyFAXと比べてもFAXイメージビューアーが独立ウィンドウとして起動する



1ページ物のFAXを簡単に送れる、ページファックスプログラム。

かどうかといった違いは少ない。

エラー時に送信条件を自動で変更する機能や、FAXイメージにメモなどが書き込めるアノテーション機能もEasyFAXと同様に持っている。

文字認識ソフトが付属

なお、STARFAXには、英語と日本語に対応した文字認識プログラムが付属している（OK Reader。住友電気工業製）。これは文字領域を自動的に切り出して文字認識ができるもので、ビューアーや受信ログなどから起動を指定できるほか、イメージスキャナーから直接イメージデータを読み込んでの文字認識も行える。

## 試用レポート

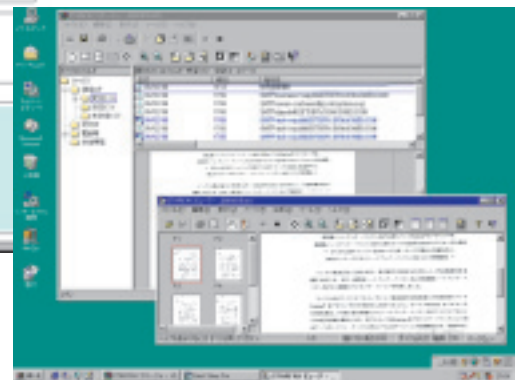
①機能面ではEasyFAXとほぼ同等基本的な機能やサーバー版の機能は、はっきりいって、EasyFAX2000/EasyFAX PRO 2000と同等といえる。その違いは、「性能」や細かい使い勝手という感じだ。ある意味で成熟



開発元	メガソフト（株）
価格	STARFAX99 7,800円 STARFAX99 Enterprise 68,000円
問い合わせ	06-6386-2072
動作環境	ウィンドウズ95/98/NT4.0が動作する24Mバイト以上のメモリーを持つもので、ハードディスクの空き容量が約15Mバイト以上（動作時にワークエリアとして約70Mバイトの空き容量を推奨）のマシン
URL	<a href="http://www.megasoft.co.jp/">http://www.megasoft.co.jp/</a>



STARFAX 通信マネージャ。FAX専用機のように状況把握したりFAXの送受信を簡単に行ったりするためのもの。



STARFAX99のメインウィンドウ（写真左側。STARFAXマネージャ）とFAXイメージビューアー（写真右下）。メインウィンドウにもレビュー機能があり、選択したFAXが表示される。

した製品分野なのだろう。ただし、今回は、時間の都合で性能面での評価はできなかった。

メガソフトのウェブサイトにあるリリース（URL <http://www.megasoft.co.jp/publish/sf99/>）には、STARFAX99 Enterpriseでも、WWWサーバーによる受信ログの表示が可能との記載があるが、評価用のプログラムのメニューやダイアログボックス、オンラインヘルプファイルやテキストなどを見る限り、該当するような機能を見つけられなかった。もし、この機能がSTARFAX99にも装備されているとすると、この点でもEasyFAXと同等になり、機能的な点で見ると甲乙付けがたい感じだ。

アプリケーションからの送信手順も同様だ。ただし、STARFAXには、1ページのFAXを直接作成して1ボタンで送信できるページファックスプログラムが付属する。（塩田紳二）



発売元	スウォッチグループジャパン株式会社
価格	10,000円
問い合わせ	03-3980-4007
URL	<a href="http://www.swatch.com/">http://www.swatch.com/</a>



今年春発売予定のSwatch Beat Down Loadモデル(右)とNet surferモデル(左)デザインは異なるが、そのほかの仕様や価格はWebmasterモデルと同じ。



「Swatch-Internet Time」では、標準時間とインターネット時間を相互に変換してくれる。

URL [http://www.swatch.com/internettime/fs\\_converter.php3](http://www.swatch.com/internettime/fs_converter.php3)

PC(ウィンドウズ)用、マッキントッシュ用、UNIX用、Palm Pilot用およびウェブページ用インターネット時計のダウンロードサービスもある。これはPC(ウィンドウズ)用。

URL [http://www.swatch.com/internettime/fs\\_download.php3](http://www.swatch.com/internettime/fs_download.php3)

1999年の春夏モデルとして登場したSwatch Beatは、スウォッチ初のデジタルウォッチだ。これまでのスウォッチと見た目大きく変わったSwatch Beatには、もう1つ大きな特徴がある。インターネット時間という世界共通時間を表示できるのだ。

現在時刻はインターネット時間で@500  
1983年にスイスで誕生したスウォッチは、まるでファッションの世界のように、毎年2回、新作を発表する。時計としてのクオリティーが高いことはもちろん、価格が安く、しかもデザイン的に優れていることから、コレクターズアイテムとしても人気が高い。

そんなスウォッチから1999年の春夏モデルとして登場した「Swatch Beat」は、同社初のデジタルウォッチだ。Net-Time、Download、

インターネット時間がわかるデジタルウォッチ

# Swatch Beat Webmaster

Check!

世界共通のインターネット時間表示機能  
ラップタイムもわかるストップウォッチ機能  
2000年までの日数をカウントダウン

すでに発売されているSwatch Beat Webmasterモデル。ストラップが異なる「large strap」と「small strap」の2タイプある。



ば、ビールの正午は@500スウォッチビート、日本の正午は@166スウォッチビートと表される。

## 試用レポート

### ① 操作と設定をする5つのボタン

モード切り替えや時刻合わせなどの操作は、本体周囲に並ぶ5つのボタンで行う。たとえば右上の「P4」を押すたびに、表示モードが順番に変わる。「P4」でストップウォッチモードにしておいて、「P1」を押せばスタート、もう一度押すとストップだ。また、時間計測中に「P3」を押すと中間時刻、「P4」を押すとラップタイムが表示される。

最初のうちはこうした操作がややこしく感じられたが、案外すぐに慣れた。操作を間違えると、ディスプレイ下方に星形のシンボルが表示されるなど、なかなか工夫されている。本体下の白いボタン「P5」を押すとバックライトが付くのだが、このボタンを2秒間押し続けるとアニメーションが始まる。これもなかなか楽しい。といっても、2~3回見ると飽きるけど……。

さて、インターネット時間を表示するには、表示モードをローカルタイムかタイム2にしておいて、「P1」を押せばよい。すると日付表示がインターネット時間表示に変わる。インターネットでイベントなどをライブ中継する機会が増えているが、開始時間などは現地時間で告知されるのが一般的だ。インターネット時間が普及すれば、こんなところに利用されるのだろう。

インターネット時間は、まさに国境のないインターネットにふさわしい時刻表示法だ。だが、@402と言われても、それが日本時間で何時何分なのかすぐにはピンとこない。Swatch Beatに、インターネット時間をローカルタイムに変換する機能があつたらと思うのは私だけではないだろう。(藪 曉彦)

Site、Netsurfer、WebmasterとProviderの6モデルが発表され、1月にまずWebmasterの発売が始まった。中間時刻やラップタイムも計れるストップウォッチ、タイマー、アラーム、海外の時刻を表示するタイム2、西暦2000年までの残り日数を表示するカウントダウン2000と、Swatch Beatはデジタルウォッチならではの多彩な機能を備えているが、中でももっともユニークなのがインターネット時間表示だ。

インターネット時間とは、米国マサチューセッツ工科大学メディア研究所の創設者ニコラス・ネグロポンテ氏の協力で、スウォッチが設定した世界標準時間だ。1日を1000ビートに分割し、「@500スウォッチビート」の形式で表示する。スウォッチビートは、スウォッチの本拠地であるスイス・ビールの午前0時を基点とし、1ビートは1分26.4秒に相当する。たとえ

iモード対応デジタル携帯電話機

# デジタル・ムーバ F501i HYPER

## Check!

ウェブページやメールが見られる  
チケット予約や銀行照会などが利用可能  
インターネット利用者の底辺拡大を期待

NTTドコモが、新サービス「iモード」を開始、これに伴い、その対応端末として「デジタル・ムーバF501i HYPER」を発売した。携帯電話を使ってインターネットのウェブページやメール、そのほかのオンラインサービスを受けられるというもので、インターネットを利用するユーザー層の底辺拡大が期待されている。

通信速度 9600bpsの  
パケット通信方式を採用

iモードは携帯電話の液晶ディスプレイで、さまざまなオンラインサービスを利用できるというもので、基本的には、電話端末にHTMLのサブセットを解釈できるWWWブラウザが組み込まれているものと考えていい。また、メールに関しても、このサービスの利用者は、「電話番号@docomo.ne.jp」のメールアドレスを貸与され、インターネットメールのやりとりができるようになる。

800MHzのデジタル方式で、接続の際の通信方式はパケット通信を採用し、スピードは9600bpsだ。したがって、課金は時間ではなく送受信したデータの量で決まり、128バイトあたり0.3円となっている。月額使用料は300円で、この中にはパケット通信サービスのライトプラン基本使用料200円が含まれるため、実質的なiモードサービス料は100円に相当する。

多種多様なコンテンツが提供される

サービス開始に伴い、銀行、証券、クレジットカード、保険、エアライン、旅行代理店、交通機関、新聞社、通信社、タウン情報関連など、多くの企業がコンテンツプロバイダーとして名乗りを上げている。既定の料金体系で換算すると、銀行の残高照会や、航空会社の空席照会、天気予報などを利用した場合、通信料

金は20～30円程度のコストとなる。

NTTドコモでは、今後、同社から発売される端末の1/3程度がiモード対応端末になるのではないかと期待し、端末数にして数百万台規模を考えているという。

新しく発売された端末F501iの場合、液晶ディスプレイに表示できる文字数は1画面あたり、漢字やひらがなで横8文字×縦6行だ。もちろん、グラフィックスは表示できない。WWWブラウザはHTML文書をそれなりに表示できる能力を持っているが、このサービス向けに、テキストのみで構成された専用のページを新たに設けるのが理想的だ。コンテンツプロバイダーとして名乗りを上げている各社は、こうしたサイトを構築する予定でいる。仕様も公開されるので、個人ユーザーもこの端末向けのページを公開できる。

## 試用レポート

① メールは漢字ひらがなで250文字相当まで

実際の接続に際しては、ドコモのパケット網の先にiモードサーバーが設置され、それをプロキシ代わりに使ったインターネット接続となる。端末とサーバーの間は、TCP/IPやHTTPとは異なるiモードに最適化された方式でデータが伝送されるため、9600bpsでもさほどストレスを感じずに情報にアクセスできるという。ただし、このサーバーはWebTVがやっているようなコンテンツの最適化変換やキャッシュは行わない。

また、メールに関しても、漢字ひらがなで250文字相当までという制限が設けられ、それを超えた分は切り捨てられる。なお、サービス開始

発売元	NTT 移動通信網株式会社
価格	35,900円
URL	<a href="http://www.nttdocomo.co.jp/">http://www.nttdocomo.co.jp/</a>

前面ボディーにアクリル素材を使用。1画面に全角で横8文字、縦6行の計48文字を表示できる。本体サイズは43(W)×19(D)×135(H)ミリ、重量約92グラム。



後日発売予定のデジタル・ムーバD501i HYPER

時には電話番号がそのままアドレスとなるが、追って、別名を付加できるサービスや、メール拒否機能などが追加されることになっている。

② 幅広い層のユーザーの獲得が狙い

ドコモとしては、このサービスおよび端末を既存のインターネットユーザーが携帯するサブ機として捉えるのではなく、あくまでも、パソコンとは無縁であったユーザー層を開拓するものだとしている。その層が、新たな需要としてPCやPDAを導入するきっかけとなるなど、最終的にトータルでデジタルトラフィックが増加することを狙っているわけだ。

さすがに、この解像度ではウェブサイトの貴重な収入源であるバナー広告などの効果もないため、実質的にはトランザクション系のサービスが主体となることが予測される。街角で乗り換え案内を利用したり映画の開始時刻を調べたりするようなインフォメーション系のサービスは、廉価な有料サービスとして提供されるようになるかもしれない。(山田祥平)

開発元	BE Inc.
国内総販売代理店	ぶらっとホーム(株)
価格	15,600円
問い合わせ	03-3251-6111
動作環境	Intel Pentium、Pentium with MMX technology、Pentium Pro、Pentium の各プロセッサを搭載したシステムが、PowerPC 603またはPowerPC 604のPCIバスを搭載したPower Macintosh、Mac OS搭載のコンピュータ、BeBox Dual 603パーソナルコンピュータで、16Mバイト以上のメモリーを持ち、ハードディスクの空き容量が約150Mバイト以上のマシン

URL <http://www.be.com/>

上段左からTelnetとFTP中の端末ウィンドウおよびネットワークプリファレンス。Telnetでは、日本語部分が表示できない。FTPではFTPサーバーとして動作する自らに接続している。中段のウェブサーバー「PoorMan」にはアクセスログが表示されている。下段左から「BeMail」の着信ウィンドウとメール送信ウィンドウ、および設定ウィンドウ。



Macやウィンドウズを思わせるGUIに表示されたWWWブラウザ「NetPositive」はJavaやダイナミックHTMLにまだ対応していないが、日本語表示も問題ない。操作中も手前の2つのウィンドウで3D画像が動きながら、CD再生もこなす高速性は快適だ。

インテルペンティアムマシンまたはPower Macで稼動するマルチスレッド、マルチタスクOSのBeOS Release 4Jは、マイクロカーネルを採用し、UNIX/Posixに準拠する。マルチCPUに対応し、64ビットファイルシステムでテラバイト級の記憶媒体もサポートするほか、さらにOpenGLグラフィックライブラリーの標準装備と、マルチメディアOSと呼ばれるにふさわしい機能を備えている。unicodeに対応していたが、リリース4で日本語入力エンジンと日本語フォントを装備し、正式に日本語版としてデビューした。

#### インターネットソフトも日本語対応

独自のGUIユーザーインターフェイスは、ウィンドウズやMacOSのどちらのユーザーが使っても違和感はない。さらにネットワークのアプリケーションも標準で用意されている。クライアントとしてWWWブラウザ、電子メール、FTP、telnetが利用できる。WWWブラウザ「NetPositive」は、ネットスケープナビゲータ

Mac、インテルマシン対応最新マルチメディアOS

# BeOS Release 4J

Check!

速く軽くシンプルなマルチプラットフォーム  
日本語入力とフォントを標準装備  
クライアントソフトを備えサーバー稼動も可能

#### 試用レポート

① インストールや設定も  
いたってシンプル

インテルペンティアム用は今回のリリースからIDEに加えてSCSI機器もサポートされるようになった。今回使ったCPUペンティアム /400MHz、マザーボードSY-6BA、SCSIカードTekram DC-390F、ネットワークインターフェイスカード3Com Fast EtherLink XL PCIの構成では設定をほとんど変更しなくても20分ほどでインストールが完了した。ホームページにBeOS Release 4J対応機器が掲載されているので参考にしてほしい。ウィンドウズ、MacOS、UNIX、DOS形式のディスクの読み書きができるので共存しやすく、ウィンドウズやMacOSとのマルチブートも可能だ。

イーサネットではクライアントマシンのアドレスやルーターのアドレスなどの設定を行うだけ。DHCPを使えば設定はより簡単になる。ダイヤルアップ接続には外部モデムが利用でき、米国製モデムやTAの設定が組み込まれている。

② 充実した機能は

最新BeWareに期待

サーバーソフトは簡易的な機能しかなく、市販ソフトやBeWareと呼ばれるシェアウェアやフリーソフトウェアが必要となる。リリース4からはLinuxでも採用されているGNUのCコンパイラとなり、リリース3以前とのバイナリ互換性がなくなったが、PC-UNIXからの移植性は高くなった。すでに、ウィンドウズのファイルサーバーとして機能するSambaも移植されている。

未完成ながらもウィンドウズやMacOSのような完成されたOSとは違った楽しさがある。高い応答性とときどきぴととした動作があいまってドライブ感が生まれている。まるでスポーツカーのようだ。それでいて、難解ではなく、低価格で導入しやすい。今後が楽しみなOSだ。(菊地宏明)

ー2.Xをよりシンプルにしたブラウザだ。

BeOS Release 4J付属のNetPositiveはSSL対応だが、JavaScriptには対応していない。しかし、Be社サイト(URL <http://www.be.com/>)からダウンロードできるNetPositive3.01のベータ版は、JavaScriptに対応している。電子メール「Be Mail」も着信メールをフォルダーに振り分けるような機能はなく、日本語でメールを書く、読む、ファイルを添付するなどの単純な機能しかない。FTPとtelnetにおいては、端末モードのウィンドウを開いてテキストベースで操作を行うが、日本語フォントが選択できず、漢字を表示できない。

サーバーとしては、個人向けのウェブサーバー、FTPサーバー、telnetサーバーがすぐに利用できる。ウェブサーバー「PoorMan」を立ち上げ、公開するディレクトリーを指定してHTMLファイルを置けば、ウェブサービスの開始となる。ただperlはなく、cgiの利用には向かない。FTPサーバーとtelnetサーバーは、ネットワークプリファレンスのオプションを指定し、必要なアカウントを設定するだけでよい。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)